

○プロジェクト研究1758－3

研究課題 「IPW(Inter-professional work)に向けた IPE(Inter-professional education)プログラムの再構築」

○研究代表者 学長 永田博司

○研究分担者 看護学科教授 加納尚美 看護学科教授 吉良淳子
(13名) 看護学科教授 山口 忍 看護学科教授 富田美加
看護学科准教授 大江佳織 看護学科准教授 糸嶺一郎
理学療法学科教授 浅川育世 作業療法学科教授 齋藤さわ子
放射線技術科学科准教授 對間博之 医科学センター教授 馬場 健
人間科学センター講師 海山宏之 助産学専攻科教授 島田智織
付属病院教授 大瀬寛高

○研究年度 令和元年度
(研究期間) 平成29年度～令和元年度(3年間)

1. 研究目的

本研究の目的は、多職種連携及び協働のできる資質を持つ保健医療人教育をさらに発展させることである。具体的には、臨床や地域でのニーズにあった多職種協働実践(inter-professional work:IPW)に向けた多職種協働教育(inter-professional education:IPE)として、現行の教育プログラムの再構築と組織化を目指すこととする。

2. 研究方法及び結果

1)IPEによる教育効果の促進及び成果評価に関する研究

(1)IPWとIPEの連結

文献検討を中心に報告し、次につなげる内容をまとめた。また、昨年度の本学における多職種協働に関するシンポジウムとして、4学科卒業生から多職種協働の実際を発表内容より今後の連結のあり方を検討した。

(2)実践現場の視察

国内における多職種協働を行っている現場として、夕張市を視察した。

2)IPEコース科目の再構築

(1)科目別評価

過去7年間のIPEコース開始(2013年4月)から現在(2019年2月)までの科目毎(表1)のアンケート調査をまとめた。調査項目は、チームワークの知識・技術・態度、チーム医療の自信及び職種毎への理解、2015年からは牧野ら¹⁾が開発したIPE尺度、IPW尺度を追加し、授業前後でアンケートを行った。その結果、授業前後の比較において概ね有意に得点が上昇していることや、各学年の授業終了時から次の授業開始までに得点が減少していること、相対的には1年生科目の得点が高い傾向がみられること等が明らかになった。

例として表2に2016年度入学生の3科目の前後の得点を示す。

表1 対象科目

チームワーク入門実習(1年生)(TWNと略記)	保健医療とチームワーク演習(2年生)(HTWと略記)
チーム医療演習(4年生)(TWと略記)	

*年度によって若干学生人数は変動するが、各学年の定員は170名である。

表2 2016年度入学生における3科目の授業前後比較

		TWN 実習 2016 (n=70)				HTW 演習 2017(n=131)				TW 演習 2019(n=140)			
		平均値	標準偏差	平均値の標準誤差	有意確率	平均値	標準偏差	平均値の標準誤差	有意確率	平均値	標準偏差	平均値の標準誤差	有意確率
IPW 得点	授業前	55.57	6.76	0.81	0.04*	53.962	5.481	0.479	0.00**	54.8714	6.92492	0.58526	0.023*
	授業後	57.01	6.58	0.79		56.542	6.267	0.548		56.2214	7.46316	0.63075	
IPE 得点	授業前	59.24	6.33	0.76	0.00**	57.870	8.437	0.737	0.00**	58.1429	8.50778	0.71904	0.00**
	授業後	64.57	6.51	0.78		61.473	7.446	0.651		60.5500	8.65679	0.73163	

(2)縦断的評価

比較可能な2016年入学生の授業開始と、2019年における授業終了時のIPE尺度及びIPW尺度を比較した結果を表3に示した。

表3 2016年度入学生における入学時及び卒業時の比較

1 年生 TMN 前から 4 年生 TW 演習後の経年変化 2016→2019 年 (n=82)

		平均値	標準偏差	平均値の標準誤差	有意確率
IPW 尺度	1 年生前	55.293	6.407	0.708	0.541
	4 年生後	55.915	7.951	0.878	
IPE 尺度	1 年生前	61.829	7.602	0.840	0.378
	4 年生後	60.793	8.713	0.962	

1 年生 TMN 前から 4 年生 TW 演習後の経年変化 2016→2019 年 学科ごと

		看護(n=22)		理学(n=20)		作業(n=24)		放射(n=16)	
		平均±SD	有意確率	平均±SD	有意確率	平均±SD	有意確率	平均±SD	有意確率
IPW 尺度	1 年生前	53.59	0.001**	53.75	0.53	58.33	0.35	55.00	0.73
	4 年生後	59.73		52.20		56.46		54.50	
IPE 尺度	1 年生前	61.14	0.037*	59.60	0.56	65.25	0.10	60.44	0.30
	4 年生後	64.86		57.95		61.04		58.38	

3)IPE教育を遂行するための教員・職員研修の充実に関する研究

IPEコースに関する教職員の理解向上と今後の展望に向けた講演会を開催し、講師と本学教員とで意見交換を行った。

- ・「多職種連携コンピテンシーの内容と開発の経緯・使い方などについて」

講師: 春田淳志准教授(筑波大学地域医療教育学/医学教育学部門)

2019年10月18日 参加者約20名

- ・「多職種連携とイノベーション」

講師: 松下博宣教授(東京情報大学大学院医療管理学)

2020年1月31日 参加者約30名

本学が参考しているIPE尺度、IPW尺度は、IPEコースの進度によって必ずしも上昇するとは限らないこと、各大学がきめ細かい授業評価を行う意義や学生のレポート等をルーブリック評価やテキストマイニングを使った質的評価に関する助言があった。

3. 総括

今年度は、これまでの膨大なデータについてまとめることができたが、様々な角度からの分析がさらに必要となる。また、研究データの分析に基づいて、本学のIPE推進部会に次期カリキュラム策定に際し、IPEコースの改定案を提供することができた。おりしも、厚生労働省の指定規則改正にIPE科目が新しく加わった学科もあり、これらの基礎データがさらに意義をもつと考える。

これまで使用してきた尺度について引き続き見直しを行い、より簡便な内容の調査方法を開発していくことが必要であると考え。授業ごとの学習目標との整合性もふまえるとともに、一律に同じアンケートを使用することによるアンケート慣れについても考慮する必要がある。今後、持続可能な教育効果の高いIPEコースを設計できるように大学内においてシステム作りが重要な課題となる。

4. 成果の発表

- 1.大江佳織, 加納尚美, 海山宏之, 吉良淳子, 堀田和司, 糸嶺一郎, 鶴見三代子. 多職種連携教育(IPE)コースにおける「チーム医療演習」の教育評価, 茨城県立医療大学紀要, vol.25 掲載予定.
- 2.斎藤さわ子, 坂本由美, Neil Daid Parry, 伊藤文香, 吉良淳子, 滝澤恵美, 對間博之, 馬場健, 加納尚美, 永田博司. 国際多職種協働実習を履修した学生の「学び」と他科目との関連, 茨城県立医療大学紀要, vol.25 掲載予定.
- 3.長岡由紀子, 真田育依, 加納尚美. 米国・ロサンゼルスにおける多職種連携・協働による研修報告, 茨城県立医療大学紀要, vol.25 掲載予定.

引用・参考文献

- 1)牧野孝俊他. チームワーク実習によるチーム医療およびその教育に対する態度の変化:保健学科と医学学科学生の比較検討, 保健医療福祉連携, 第2巻, 第1号, 2010;2-11.